

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100277		
法人名	株式会社 アイ・エム・シー		
事業所名	IMCグループホーム 高須		
所在地	〒781-8104 高知県高知市高須2丁目14-7		
自己評価作成日	平成23年7月20日	評価結果 市町村受理日	平成23年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、入居者一人ひとりのその人らしさを尊重し、生活のペースや生活歴に合わせたケアに努めている。職員は入居者と共に暮らす者としての姿勢を大切にしながら、入居に至るまでの家族の様々な思いを受止め、心のケアにも取り組んでいる。また、いきいき百歳体操やデイサービスセンターの利用者との心の交流や隣接の町内会と交流するなど、地域に密着したホームづくりに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JGD=3990100277&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年8月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は商業地域に立地しているが、隣接の町内会長や地域の7名の民生委員から運営推進会議のメンバーとして協力を得たり、ボランティアによる絵手紙教室には地域住民の参加を得ている。また、地域のいきいき百歳体操に交流ホールを提供し、地域からの参加者や併設のデイサービスセンターの利用者とも交流している。そのほか、地域向けに事業所の新聞を配布したり、事業所開設月のイベント案内をするなど、情報発信をするとともに、乳幼児と触れ合う機会も持つなど、和やかなひと時を過ごす場面づくりもしている。管理者は各フロア長を通して職員との意思疎通を図り、法人介護事業部との連絡調整を行い、利用者一人ひとりの思いを大切にされた支援に取り組むとともに、家族の協力も得たり、家族同士の交流や懇談の機会も設けている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 2階・3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と喜びや悲しみを共有し、共に暮らす姿勢を大切にした地域密着型の理念を作成している。介フロア単位のショートミーティングや朝礼を通じて職員に理念を意識づけ、実践している。	法人の基本理念に沿って事業所独自の目標を立て、昨年度から3年計画で職員への理念の浸透に取り組んでいる。また、カンファレンスでケアを振り返りながら理念の意識づけを行い、日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催のいきいき体操に交流ホールを開放したりまた、地域のボランティアによる絵手紙教室に地域の方の参加があり、利用者や交流している。また、地域向けの新聞を発行するなどの情報発信もしている。	散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、開設記念祭や絵手紙教室などの事業所の行事に地域の住民や子どもたちの参加がある。また、いきいき百歳体操の実施に交流ホールを提供し、地域の参加者と交流したり、地域向けの事業所の新聞を年4日回発行している。	商業地域に立地している中、地域との関係づくりに努めているが、さらに地域資源の把握を行い、保育所や学校、ボランティアなどの協力者と協働して利用者の豊かな暮らしにつなげていくよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事(防災訓練、記念祭)やいきいき百歳体操に参加の方に認知症への関心を持ってもらい、説明したり相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況等について報告し、地域や家族の代表者、地域包括支援センターの職員から意見を出してもらい、サービスの向上に活かしている。	会議では、その時点の運営状況や課題等について報告し、参加委員と双方向的に話し合っている。評価結果や目標達成計画についても議題にあげ、取り組みについて助言をもらうなど、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する研修や会合には積極的に参加し、ケアに活かしている。相談を受けホームで解決できない事例等は地域包括支援センターに取り次ぐなど、協力関係を築いている。	制度の運用などについて市の担当課に相談したり、地域包括支援センターとは運営推進会議や地区のグループホーム連絡会、入居希望者の情報交換などを通して関係をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて勉強会を行い、職員の理解を深め、実践している。フロアの玄関や居室の施錠は行わず、ケアや言葉がけに工夫するなど、抑圧感のない暮らしを支援している。	法人内外の研修会に参加し、伝達講習やフロア会を通して職員の理解を深め、拘束をしないケアを実践している。言葉による抑制については、その都度注意するようにしている。外出傾向のある利用者は止めることなく一緒に周辺を散歩するなど見守るとともに、建物玄関の自動ドアのタッチパネルの設備は見直す方向で検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について朝礼や勉強会を通じて職員に徹底するとともに、職員にストレスがたまらないよう配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け、フロア会などで職員に周知し、相談があれば対応できるようにしている(共通)。制度を活用している事例もある(2F)。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に十分な話し合いの時間を持ち、契約内容や重油説明事項について、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付窓口や外部の受付機関について説明している。家族の意向を受けて苦情箱の設置場所を配慮したり、普段から意見等を出してもらうよう信頼関係づくりに努めている。また、年4回の家族会で意見交換できるように取り組んでいる。	行事に合わせて家族会を開催し、家族同士で懇談する機会を設けている。面会時には必ず声をかけ、気軽に何でも話してもらう雰囲気づくりに配慮し、個別ケアにつなげている。また、外出や行事に際して協力してもらう関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では、毎年職員アンケートを実施し、意見等を汲み上げている。また、個人面談やフロア会を通じて管理者、フロア長、職員間の言い疎通を図り、運営に関して話し合っている。	フロア会やショートミーティング、個別面談を通して職員の意見等を聞いている。毎週開催される施設長会で現場からの提案等を法人に相談したり、法人職員も定期的に事業所を訪れるなど、日頃から意思疎通を図っている。外出支援の充実のために公用車を増やすなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や個人面談を通じて職員の勤務状況等を把握するとともに、福利厚生事業の充実や資格取得の支援など、やりがいを持って働ける環境づくりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に上司の推薦や受講希望に沿って勤務扱いで参加できるようにしている。また、法人内の新任研修やフロア長、リーダー研修のほか、ホーム内で毎月テーマに沿って勉強会を行うなど、職員スキルの向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県全体や地域のグループホーム連絡会に加入し、勉強会や研修会に積極的に参加し、情報交換や交流を通じてサービスの向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に、本人や家族、関係者に面談し、本人の状態の把握や不安や要望を聞きアセスメントを行い、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から利用開始に至るまでに、家族の意向などを良く聴くとともに、家族の迷い、不安、悩みにも真剣に向き合い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に、本人の状態や家族の意向に沿って、最善の方法を探り、入居時期や他のサービス利用も含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で利用者に役割りを持ってもらいながら、生活の知恵など職員も教えてもらいながら、共に暮らす姿勢や関係づくりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や担当職員からの手紙を通じて、日頃の様子を伝え、共に支え合っていく関係を築いている。また、職員は本人と家族の絆を大切に寄添うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用したり、知人等の面会が自由にできるようにしている。また、家族の協力で思い出の場所に出かけるなど、これまでの関係が継続できるように支援している。	友人、知人の来訪を受けたり、行きつけの美容院を利用している。自宅周辺へのドライブは、利用者の状況や家族の意向も聞きながら個別に対応するとともに、家族の協力も得て郡部の出身地に出かけるなど、これまでの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の馴染みの関係ができており、食事時の気遣いなどの場面もみられる。また、トラブルの仲介や、良好な関わり合いの場面を崩さないよう見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の相談や情報提供のほか、入院先に見舞いに行ったり、電話や手紙で家族との関係も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話などから利用者の思いや希望を把握している。困難な場合は家族に相談したり、アセスメントシートに沿って本人本位に検討している。	日常会話や行動等から、利用者の思いや意向等を把握している。困難な場合は生活歴や趣味や好きなことなどから場面づくりをしたり、家族から情報を得るなどして、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などの情報を収集し、年表を作成するとともに、これまでのサービス利用の経過もケアマネージャーや病院から情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの心身の状態や暮らし振り、自分でできることなどの現状を把握し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアで毎月話し合いの機会を持ち、担当職員を中心にモニタリングを行っている。また、本人や家族の意向も把握し、プランに活かしている。	毎月、フロア会でケアの実践状況等について話し合い、3カ月を基本に、利用者、家族の意向も聞きながらカンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者の状況に変化があったり、退院時にはその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などを解りやすくケース記録に残し、職員間で共有し、実践やプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院支援や家族の宿泊、食事など、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や消防署のほか、ボランティア(絵手紙教室、乳幼児との触れ合い、餅つき大会などの行事への参加)の協力を得て、利用者が安全で豊かに暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を利用している。状況に応じて在宅医療の利用などの情報も伝え、家族に判断してもらうようにしている。また、受診に際して家族や主治医に利用者の状態等の情報を提供している。	利用者、家族の判断で、従来からのかかりつけ医に受診したり、協力医の往診治療に切り替えるなど、個々に応じて適切に医療が受けられるよう支援している。主治医と情報を共有したり、職員は、家族から受診結果の報告を受け、申し送りや記録を通して共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に2日を基本に勤務しており、日々の状態の報告や相談をしている。また、利用者の状態に応じて適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師、介護職員が入院先の主治医、相談員と連絡を密にし、早期に退院できるように情報交換をしている。入院時は定期的に面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応方針を本人、家族に説明し、利用者の状況や家族の意向に沿って主治医と早期に話し合い、職員も方針を共有している。終末期の支援に当たっては、主治医や訪問看護師、ホームの看護師や職員が連携を取りながらチームで取り組んでいる。	入居時に、重度化等の対応指針を説明し、同意を得ている。利用者の状態に応じてその都度家族や主治医と話し合い、方針を共有している。これまでも事業所での看取りや医療機関で終末期を迎えた事例があり、家族の意向に沿って医療関係者と連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応時のマニュアルを作成し、勉強会や研修を通じて全職員が実践力を身につけ、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施し、地域住民の参加もある。また、避難路の周知、確認や消防設備の点検も定期的に実施するとともに、非常用の食料品も準備している。	年2回、消防署の指導を受けて防災訓練を実施している。避難路などの確認をするとともに、いきいき百歳体操を通して関係ができていない住民の参加も得ている。非常用の食料等の備蓄もしている。	災害時には地域の協力が欠かせないため、現在、地域で自主防災会の組織化の動きもあることから、運営推進会議も活用しながら、地域ぐるみの防災体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会や個人面談などで個人のプライバシー尊重の重要性について話し合い、日々の利用者との関わりの中での実践を周知している。	法人をあげて利用者の尊厳の確保に取り組んでおり、ショートミーティングで取り上げ、職員の意識づけを行うとともに、排泄や入浴などのケアの場面で、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から思いや意向を聞いたり、利用者を選択してもらう場面づくりなどを行い、職員本意にならないように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活のペースや本人の意思を尊重し、柔軟に対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の利用や季節に合った衣類など、その人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることを役割りとして持ってもらい、食材の調理、盛りつけや片づけなど主体的に行ってもらうように支援している。また、職員も食卓を共にしている。献立は外部委託の栄養士が立てており、希望等は伝えている。	献立や食材調達は外注しており、利用者の嗜好や食事の感想などを業者に伝えている。利用者はそれぞれの能力に応じて、調理の下ごしらえや盛り付け、配膳や片づけなどの役割を担い、食事を楽しんでいる。職員も会話をしながら一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量のチェックを行い、必要に応じて刻み食にしたり、食器を替えたり、好みの物を提供するなど、必要量が確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個々の能力に合わせ、声かけや手助けをしながら口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、声かけなど状況に応じた支援をしている。また、夜間はリハビリパンツを使用し、日中は布パンツに替えるなど、個々の状況に応じて支援している。	殆どの利用者は排泄の自立ができており、排泄パターンや尿意などの素振りからトイレで排泄するよう声をかけたり、必要な介助をしている。また、夜間のみリハビリパンツを使用したり、退院時のオムツはずしや安心してもらうためパッドを利用するなど、個別に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やおやつの工夫、いきいき百歳体操などを通して体を動かすことを大切にして便秘予防に取り組んでいる。また、下剤に頼らない食生活の改善や工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者が希望する時間帯に入浴できるよう支援している。入浴を拒否する方には声かけの工夫などをしながら支援している。	利用者の希望に沿って、午後3時から夕食前に入浴支援をしている。また、利用者の状況に応じて朝食前や就寝前に入浴など、柔軟に支援している。入浴拒否がある場合は無理強いせず、声かけのタイミングや日を替えるなどして、週に2回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて昼寝をしたり、日中の運動や活動量を増やし、夜間に安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関するマニュアルを職員に周知し、服薬前には二者確認表も取り入れるなど、職員同士で確認、チェックを行いながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に沿って買物、ドライブ、行事への参加などの楽しみごとへの場面づくりをしたり、喫煙など、好みや趣味に応じて気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に少人数で散歩や買物、ドライブなどに出かけている。利用者の希望も聞きながら行事計画を立てるとともに、公用車の整備もしながら外出支援に取り組んでいる。また、家族の協力も得て美容院に行ったり、ふるさと訪問などもしている。	利用者の希望に沿って、事業所周辺の散歩や量販店に買物に行っている。また、弁当を持参して公園等に出かけ、歩く機会を持つようにしたり、季節に応じた花見や行楽などを計画的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所で預かっている。買物時には自分で支払いできるような個々に応じて柔軟に対応している。(2Fは自己管理できる利用者もいる)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて毎日電話できるようにしている。また、友人からの手紙は本人に渡している(2F)。 友人からの手紙を家族に届けてもらい、返事を書く支援をしている(3F)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	乳幼児との触れ合いや行楽などの行事写真を貼ったり、季節に応じた温度調節や飾りつけなど、居心地よく過ごせるように工夫している。	3階建ての1階には交流ホールがあり、2階、3階の各ユニットは同じ構造で、食堂兼居間はゆったりしており、廊下などの随所にソファを置き、思い思いにくつろげるようにしている。季節の花を活けたり、紙細工や飾り付けで季節感を採り入れ、行事の写真を貼るなど、和やかな雰囲気づくりに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりで過ごせるようソファを置いたり、気の合う利用者同士が座って談笑できる場所を確保するなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらい、家族と相談しながら居心地のよい居室づくりをしている。	居室はクローゼットや洗面台があり、利用者一人ひとりの生活空間となっており、これまでの生活習慣に応じて畳敷きにするなどの配慮もしている。利用者は整理ダンスや机、椅子、テレビや冷蔵庫のほか身の回りの小物や家族写真、位碑などを置き、その人の生活が感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーに配慮し、随所に手摺をつけたり、利用者に分かりやすいよう居室に表示するなど、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない